

## 本市が取り組んでいる「本との出会いやきっかけづくり」

### ◆小さな頃から「本」にふれあえる取り組み◆

ブックスタート事業として、10ヵ月健診の親子に「赤ちゃん絵本」をプレゼントしています。文字が読めなくても絵を楽しみ、家族の声やふれあいから「本は楽しい」「本を読むのはうれしい」と感じてもらえます。

毎週水曜日と金曜日に図書館で、司書とおはなしボランティアが協働で「おはなし会」を開催しています。擬音語や擬態語、食べ物や動物など赤ちゃんの身近な



ものをテーマにした絵本の読み聞かせをしています。おうちの人と一緒に絵本を楽しんでいただけるひと時です。また、赤ちゃんの頃からの家庭での読み聞かせのあたたかな時間が、小さな頃からの読書習慣につながると考えています。

### ◆心豊かに過ごせる図書館、人と人がつながる図書館◆

大人のための映画会や、専門分野講座、図書館サポート隊による講座やコンサート、作品展など、さまざまな楽しいイベントを開催しています。

### ◆地域作家・資料コーナー◆

「守山にこんな人がいたのか」と興味を持ってもらえるよう、カウンター前に地域作家コーナーを設置しています。文学をはじめ各方面で活躍した、守山市にゆかりの深い作家や人物を紹介しています。



奥の地域資料コーナーでは、守山市・滋賀県に関する資料を集めています。

### ◆中高生サポーター◆

中高生サポーター約30人の協力により、ティーンズコーナーで自ら選んだ本にPOPをつけての紹介や、本の間鍋(福袋)、クイズラリーなどのイベントを行っています。中高生だけでなく、一般の利用者にも好評です。



## ● 地域作家からもニュースをお届け ●

### 念願の児童文学作家デビュー



こうまる みづほさん

こうまる みづほさん(吉身五丁目)が、絵童話「おてがみ ほしいぞ」(あかね書房・こうまる みづほ 作・丸山 誠司 絵)で作家デビューを果たし、著書を市立図書館や各小学校に寄贈しました。

約25年前、わが子を寝かしつける時に、即興で作った話をしたところ、とても喜んでくれたことが児童文学を志すきっかけになったそうです。同人誌で勉強をしながら、いろいろな児童文学の賞に応募し、入賞歴を重ねて「いつかは単行本を出したい」という夢を追ってきました。

こうまるさんは「ジャンルにこだわらず、児童文学を書いています。『希望の文学』といわれる、未来へ向かう前向きな終わり方をするのが児童文学の魅力です。たくさん子どもたちに読んでもらって、本を好きになってほしい」と話していました。

### 5冊目の「宝箱」ができました



今関 信子さん

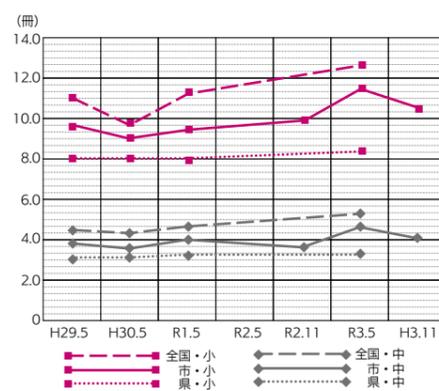
滋賀県児童図書研究会が書籍「ぼくら滋賀っ子 おひさまいろの宝箱」(サンライズ出版・公益財団法人平和堂財団)を刊行し、市内小学校や市立図書館、子ども読書ボランティア団体などに寄贈しました。

創作活動を学んでいる同研究会のメンバーが書き下ろした県内各地の郷土や子どもたちを題材にした小説を詰め込み、2年ごとに発行している「宝箱シリーズ」の第5弾です。

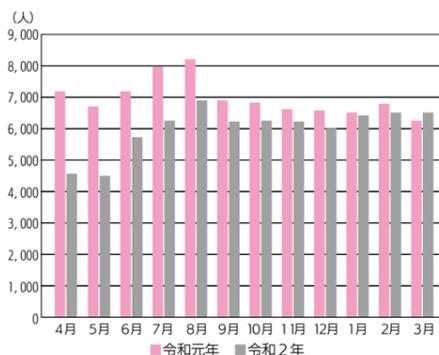
同研究会会長で児童文学作家でもある今関 信子さん(金森町)は「守山は新しい図書館ができて市民が喜び、本への興味も燃え盛っていると思います。宝箱シリーズのお話を読んだり聴いたりして、子どもたちに本も郷土も好きになってほしいと思ってお配りしています」と話していました。

## 市民1人当たりの貸し出し冊数を増やす 楽しい施設で「本との出会い」を後押し

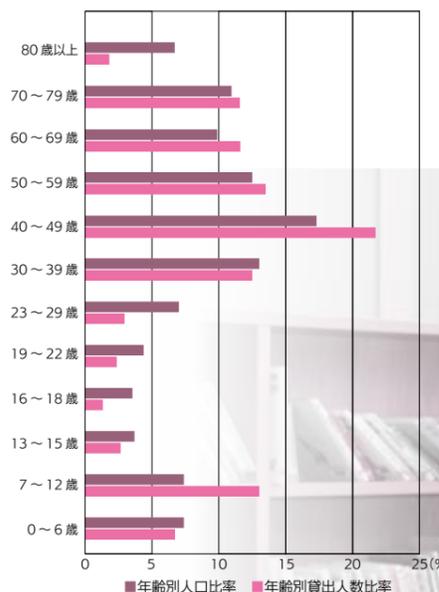
児童生徒の1ヵ月間の平均読書冊数



市立図書館の実利用者数



市の年齢別人口比と貸出人数比率



イメージ写真



市立図書館 松本 孝子館長

市立図書館では「本が好き、読書が好きと言える人があふれるまちにしたい」「本に興味のなかった人も図書館に来ることで本にふれる機会をつくりたい」という願いを込めて「本との出会いやきっかけづくり」に最も力を入れています。

本市の児童生徒の平均読書冊数などの統計を見ると、県の平均より多くなっていますが、中学・高校生から20歳代までは読書の機会が減ってしまいます。

読書日本一のまちづくりを目指して、市民1人当たりの本の貸し出し冊数16冊を目標にしています。そのため、図書館の蔵書の充実や、学校図書館の活性化に加えて、新たに北部図書館機能の整備により、守山市全体が、本を手に取りやすく、身近に本に親しめるまちになるようにします。



読書日本一のまちをめざして

ピックアップ

本市は市制施行50周年を記念した「守山みらい懇談会提言書」により、2020年から「読書日本一のまち」を目指しています。  
 今回は、市立図書館や学校図書室の利用状況、本を読む楽しさを知ってもらうための取り組みなどを紹介します。